令和4年度　地域包括支援センター　業務チェック票　センター名：ほんだ

1　センター記入欄

①独自に取り組んだ項目・特に力を入れた取り組み

・新規に立ち上がった集いの場の運営継続支援
・ほんだ包括全体での小地域ケア会議の取り組み
・キャラバンメイト養成研修にむけての人材確保
・コロナ禍でも行える教室・講座・アウトリーチの実施
・地域の喫茶店等へのアウトリーチ活動実施と認知症カフェ打診
・オンラインを活用した会議等の開催
・生活支援コーディネーターを中心とした地域資源の発掘と情報の積み上げ
・障害福祉分野との連携強化（お互いのサービス理解）
・高齢者だけでなく様々な世代へ自立支援の考え方を普及した。

②地域課題を踏まえ取り組んだこと・特に意識的に取り組んだ地域との関わり

・コロナ禍での利用者・地域住民・支援機関との交流や関係作り
・多課題世帯（8050・低所得・引きこもり・夫婦間や家族間トラブル・支援拒否等）への支援を円滑に行うための個別支援会議の開催、関係機関での情報共有、役割分担を行った。
・個別支援会議の内容をセンター内で共有し、会議で得た社会資源や制度の内容を他のケースにも生かせるようにした。
・消費者被害の予防働きかけ・アプローチ方法模索（第2層協議体や消費者被害防止講座の開催）
・認知症世帯やフレイルに陥る住民、孤立する可能性の高い住民への見守り強化や掘り起こしを行った。
・集いの場の戦略策定会議を開催。担い手探し、立ち上げへの説明会を実施した。

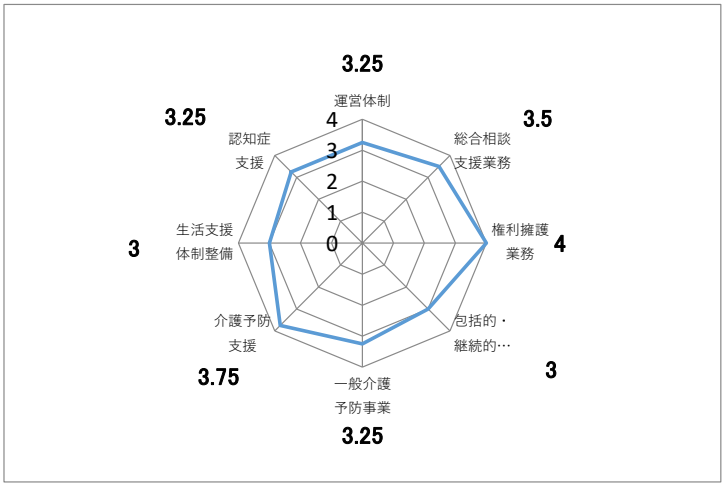
③取り組みから見えた成果・解決に進んだ課題

・市民キャラバンメイトを2名増員できた。
・地域の喫茶店で家族介護者交流会・アウトリーチ事業を実施。家族介護者交流会では、マスターから「今後もこのような催しを開催したい」と前向きな意見をもらえた。
・親の介護の相談がきっかけで包括とかかわりを持った市民へ集いの場の説明会や認知症サポーター養成講座への参加を促した。参加後に「近隣住民にも周知していきたい」との意見をもらえた。
・多課題世帯の個別支援会議を通じて障害や権利擁護関係機関との顔の見える関係づくりができ、お互いの支援の課題を共有することができ、役割が明確になり、その後の支援がスムーズに行えるようになった。
・高齢者だけでなく様々な世代の住民を介護予防・認知症啓発等の活動に巻き込むことができた。
・集いの場の説明会の参加者から「家族や近隣と共有したい」という意見がもらえた。

④次年度取り組みたい項目（事業計画への反映）

・地域の喫茶店等への認知症カフェの開催打診
・センター内勉強会の計画的な開催と内容の充実を図る（成年後見関連、都営住宅の高齢者福祉について、障害分野の制度理解、オンライン会議の開催方法など）
・65歳未満の世代に向けて、地域を知ってもらうための取組みの検討
・特定居宅介護支援事業所との連携
・介護予防理念の周知、徹底
・集いの場の担い手懇談会の開催（グループ同士の交流会の機会を作り、情報交換や悩みの共有を行う）

2　結果



※ グラフは各質問項目の平均値にて作成。

平均値	3.38

3　市による確認結果

令和5年3月24日に地域包括支援センターヒアリングを実施。
気軽に集える場所が少ないことを地域課題と捉え，地域の喫茶店に協力を得ながら家族介護者交流介やサロンを開催した。
認知症カフェは，既存の1か所で認知症サポーターに活躍してもらえるよう支援したということがわかった。
多課題ケースは連携機関が多くそれぞれの考えや動きが見えづらいという課題があり，関係者が顔を合わせて課題共有し考えを整理する場として，個別支援会議の開催に力を入れて取り組み，結果，ケース支援がスムーズに行えたということを確認した。

4　運営協議会からの意見

5月19日に開かれた，第1回国分寺市地域包括支援センター運営推進会議の資料として提示。
自己評価結果に相違なし。

5　市による総評

市の事業実施方針に基づき，包括的支援事業が円滑に実施できている。